

I. 新年のご挨拶

日本内燃機関連合会
会長 米澤 克夫 *

新年明けましておめでとうございます。

年頭に当たり、日本内燃機関連合会(日内連)を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年7月に会長に就任し約半年が経過いたしました。おかげさまで会員各社、各団体の皆様のご支援により日内連の活動を滞りなく進めることができました。

昨年は世界的に経済環境が改善しているものの、業界によりまだら模様である傾向は変わりなく、内燃機関業界は船用機関については市場の停滞が継続し排ガス規制対応での回復にはもう少し時間がかかりそうな状況です。陸用機関においては、再生可能エネルギーの導入増加、電動化の進捗により、発電用を中心に厳しい事業環境が継続しています。

その中で低速 DF 機関の運用開始、VCR(Variable Compression Ratio system)機関、中速ガスエンジンの高効率化など地道な技術開発が継続され、内燃機関における日本の技術的優位は維持されていると感じています。さらに、IoT 技術との組み合わせによるユーザーと供給側が一緒になってエンジンの効率的運用につながるサービス事業が拡大しています。

一方で昨年は日本の製造業の品質に関わる不祥事が続き、高品質が競争力の源泉であった日本の製造業界にとって反省することの多い1年でもありました。国際規格であるISO、および日本の規格であるJIS 関連業務が大きな事業分野としている日内連といたしましても製品、システムの品質、標準化事業に取り組んでいくことの重要性を再認識する年でもありました。

2018年は平昌冬季オリンピックに始まり、6月からはロシアでサッカーのワールドカップが開催されるなど大きな国際イベントが多い年です。日内連としてもCIMACメンバー国が持ち回りで開催するCIMAC CASCADES(若手技術者のための論文発表会)を秋に日本で開催する他、2019年のCIMACバンクーバー大会に向けて5月にCall for Paperを迎える予定で、内燃機関業界における日本のリーダーシップを発揮しなくてはならない年と認識しています。引き続き、CIMACとの連携を図りISO・JIS関連の標準化事業を通して会員の皆様のお役に立つことができるよう尽力して参りますので関係各位のご支援、ご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。

最後に、本年が会員の皆様とご家族にとり、健康で実りの多い年となることを祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。



* (株) IHI 執行役員